

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人長岡技術科学大学

## 1 全体評価

長岡技術科学大学は、主に高等専門学校から学生を受け入れ、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に貢献する大学を目指している。第3期中期目標期間においては、①未踏領域・未踏分野に挑戦する、タフなグローバル技術者の育成、②強みを持つ分野を中心に世界をリードする先進的・創造的研究や分野融合型研究の推進、③海外大学・産業界との強固なネットワークに立脚したグローバル化の推進、④地域や企業が抱える諸課題の解決や地域が必要とする人材を育成するとともに、地域を世界に繋ぐ役割を果たし、地域活性化・地方創生に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学生・教職員が開発したSDGs教育ゲームを幅広い教育機関へ提供し、SDGsの啓発に取り組んでいるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 例年開催してきた合同企業説明会の企業とのネットワークを産学連携にも活用した産学連携フォーラム（合同企業研究会・技術連携説明会）を開催している。初の試みとなる技術連携説明会では、企業、自治体、環新潟エリア5高専（鶴岡、群馬、長岡、富山、長野）、国連アカデミック・インパクトSDGsハブ大学等の協力により、教員の研究シーズのプレゼンテーション、企業からの卒業生の活躍状況及び大学・高専との連携の紹介、自治体で実施している企業誘致等の取組の紹介、SDGsに関するセミナー等を実施している。本フォーラムには583の企業が登録しており、多様な企業ニーズの獲得に向けた産学官金の連携強化を推進している。（ユニット「豊橋技術大学及び高等専門学校との連携による実践的技術者の育成と機能強化」に関する取組）
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中小企業を支援するため、「テレワークの基礎と応用」に関する企業従業員向けオンライン講座を無料で開講している。厳しい経営状況においても雇用を維持する企業に対し給付される雇用調整助成金を加算受給できる教育訓練として労働局に認定され、近隣自治体に企業への活用の周知を依頼したことで、2日間で延べ約300名が受講し、地域の雇用維持に貢献している。（ユニット「産業界のニーズを踏まえた先進的・実践的・創造的研究の推進と地域社会への貢献」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載17事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

**○ SDGs教育ゲームの提供によるSDGs推進**

学生・教職員が開発したSDGs教育ゲームを大学主催イベントや大学のウェブサイトで無償提供し、楽しみながらSDGsを学ぶ機会を提供している。令和2年度には初等教育機関から高等教育機関まで幅広い教育機関へ教材として提供しているほか、企業内研修や企業が主催するSDGs啓発活動への協力として教材を提供し、SDGsの啓発を推進している。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 学生SDGsプロモーターによるSDGs普及啓発

SDGsへの理解を高めるための広報活動やイベントを企画・実施を目的として学生SDGsプロモーター制度を新設し、留学生を含む学生16名を学生SDGsプロモーターに任命している。プロモーターはSDGs講演会や産学連携フォーラム内のオンラインセミナーでSDGsに関する講演を企業・市民に対し実施しているほか、海岸清掃活動の企画、市民向けのSDGsに関する意識調査等、地域におけるSDGsの普及啓発に大きな役割を果たしている。

### ○ 学生起業支援の取組

長岡市内の4大学1高専と長岡市、長岡商工会議所で構成する「NaDeC構想推進コンソーシアム」において大学の教授がリーダーを務めている起業支援ワーキンググループでは、長岡市内の段階的な学生起業支援を行う長岡起業支援システム「ファーストペンギンプログラム」を立ち上げている。本プログラムの実施を通して、学生が企業の研究開発現場やベンチャー企業において、共同研究等を進めながら経営等を含めた複眼的要素を学ぶ機会を提供しており、令和2年度は参加学生からの起業が5件となっている。